

# I 平成21年大分市消費者物価指数の動向

## 1 概況

平成21年平均大分市消費者物価指数の総合指数は、平成17年を100として101.2となり、前年に比べ0.5%の下落昇となった。

近年の総合指数の動きを前年比で見ると、平成11年は前年に高騰した生鮮野菜の値下がりに加え、電気・ガス代や工業製品の値下がりなどにより0.7%の下落となった。12年は生鮮食品の値下がりに加え、耐久消費財や繊維製品などの工業製品の値下がりなどにより0.4%の下落となった。その後も耐久消費財などの値下がりが続き、13年は0.7%の下落、14年は1.1%の下落、15年は0.3%の下落、16年は0.1%の下落となった。17年は前年に高騰した米類・生鮮野菜などが値下がりしたことなどにより0.3%の下落となった。18年は原油高の影響などにより0.3%の上昇となった。19年は原油高の影響などにより外食やガソリン代などが値上がりしたが、耐久消費財の値下がりなどにより、前年と同水準となった。20年は、前年に引き続き原油高の影響などにより穀類やガソリン代・灯油などが大幅に値上がりしたため、前年に比べ1.4%の上昇となった。

平成21年は、前年における石油製品価格高騰の反動の影響などにより、ガソリン代・灯油や耐久消費財などが値下がりしたため、前年に比べ0.5%の下落となった。

総合指数と前年比の推移

